

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/seiiku-zyoho.html#suitou>

第 3 報
千葉県農林水産部
令和8年6月17日

「ふさおとめ」は穂肥の時期です 生育に応じて穂肥の時期・量を調整しましょう

[生育概況]

関東甲信地方は平年と同じ6月7日頃に梅雨入りしました。6月第1半旬以降、平年より気温は低く、日照時間は少なく推移しました。現在の生育は、草丈が「並～やや長」、茎数が「並～多」、葉色が「並」となっています（表1）。気象庁によると今後2週間は気温が「低い～平年並」と予想されていますので、こまめにほ場の状況を確認しましょう。

幼穂形成期は平年と比較して、4月20日植えの「ふさおとめ」、「ふさこがね」で「やや早」となり、既に幼穂形成期を迎えている地域もあります。「コシヒカリ」は6月21日頃、「粒すけ」は6月19日頃からとなる見込みです。「コシヒカリ」などで倒伏が懸念される場合は、生育状況を確認し、穂肥の施用時期・量を判断しましょう。

表1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	生育程度（平年値との比較）※1			
		生育進度※2	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	やや早	並	やや多	並
ふさこがね	4月20日	やや早	やや長	やや多	並
コシヒカリ	4月20日	並	やや長	並	並
	5月1日	並	やや長	多	並
粒すけ	4月20日	並	並	並	並

※1 平年値は直近10か年（2016～2025年）の平均値。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断。

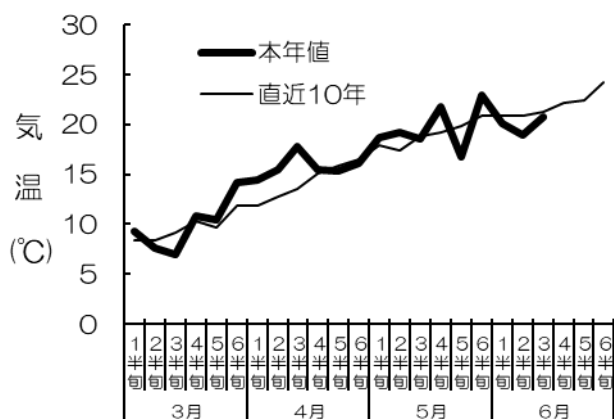


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

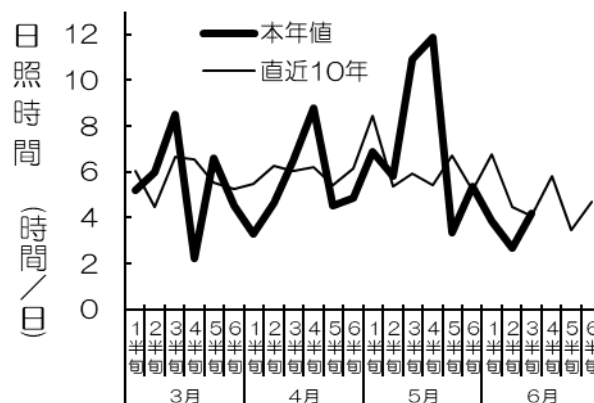


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■穂肥は遅れないようにしましょう

「ふさおとめ」、「ふさこがね」は既に穂肥の時期に入っている地域がありますので、遅れないように施用しましょう。「コシヒカリ」、「粒すけ」はこれから幼穂形成期となりますので、それまでに中干しを終了します。穂肥を施用する際は、必ず幼穂長や生育状況を確認し、施用の時期・量を判断しましょう（表4）。

○穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や、玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月17日	6月14日	6月12日	6月12日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm~1cm】
ふさこがね	4月20日	6月18日	6月15日	6月13日	6月13日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月26日	6月23日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃~ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm~8cm】
	5月1日	6月30日	6月28日	6月26日	6月26日	
粒すけ	4月20日	6月24日	6月22日	6月19日	6月19日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月26日頃~				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分げつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月4日頃~				

※幼穂形成期については、水稻作柄安定対策調査結果と生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1~2kg、「ふさこがね」は2~3kg、「コシヒカリ」「粒すけ」は2kg）です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせた上で、減肥しましょう。

近年、秋の長雨・台風により、倒伏するほ場も多くみられますので、幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量3kg（ただし、たい肥を施用している場合は、窒素のみ3kg）が目安となります。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500 (25~27 本)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560 (23~30 本)			3.5~4.0
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)		5.0

※茎数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

表4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 茎数 (m ² 当り)	カラスケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収	増肥、または時期を 2~3 日早める。		×
16,000 ~ 20,000	560 ~ 700	490 ~ 600	440 ~ 550	70~ 80cm	目標どおりの 生育が期待 籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、 倒伏が心配	標準量	標準	×
20,000 ~ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰と なり、乳白米の 発生が心配	減肥 (窒素施用量 1~2kg/10a) し て時期を遅らせる か、または無施用。		×
				75~ 82cm	稈長が伸び、 倒伏が心配	×	×	必要

※カラスケール値とおおよその茎数 (m²当り) の関係は、SPAD 値とカラスケール値との
換算式に基づき、目安として示した。

■高温登熟障害を回避する施肥管理

出穂期後 20 日間の平均気温が 26℃ を超えると、白未熟粒 (高温登熟障害) が多くなります。白未熟粒対策として、出穂期前 7~5 日 (穂ばらみ期) に葉色を確認しましょう。

葉色が淡く目標値に達しないと予想される場合は、10a 当たり窒素量で 1kg を上限 (食味低下を防ぐため) に追肥を施用しましょう (表 5)。特に、倒伏回避のため穂肥を減肥又は無施用とした場合は、葉色の低下が懸念されますので、出穂期前 7~5 日の葉色を確認した上で追肥するか判断しましょう。

表5 各品種の出穂期の葉色目標及び軽減対策における対策時期と施用窒素量

品種	葉色 (SPAD 値)	対策時期	窒素量
ふさこがね	36.5	出穂期 7~5 日前	1 kg/10a 以内
コシヒカリ	34.4		
粒すけ	34.0		

※「コシヒカリ」の葉色 (SPAD 値) 34.4 は葉色カラスケール値で概ね 4 に相当

■水管理

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行います。(自然由来のカドミウムの吸収を抑える技術です。)

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10~15 日後(出穂期 15~10 日前)に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため「深水管理」にします。

特に耐冷性が弱い「アキヒカリ」、「夢あおば」の4月植えについては注意しましょう。

表6 冷害危険期予測(冷害危険期は記載日から6日間)

品種	植付時期	県北 (香取市)	九十九里 (横芝光町)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	6月27日	6月24日	6月22日	6月22日
ふさこがね	4月20日	6月28日	6月25日	6月23日	6月23日
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	7月6日~			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	7月14日~			

■病害虫・雑草防除

農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用しましょう。

また、令和8年版農作物病害虫雑草防除指針(付 植物成長調整剤使用指針)も参照してください。(右 QR コードからご覧ください)。



農作物病害虫雑草
防除指針 HP

○いもち病、紋枯病、稲こうじ病の防除

いもち病は、長雨や湿度の高い日が続くと発生が多くなります。上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に薬剤防除しましょう。

紋枯病は、高温多湿で茎数が多いと発生しやすくなります。紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。また、前年に多発したほ場では発生しやすくなります。近年では多肥栽培をする飼料用米栽培で発生が多いので、状況を確認しましょう。

稲こうじ病は、穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。玄米に稲こうじ病が混入すると規格外になってしまいます。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

○イネカメムシ、斑点米カメムシ類

イネカメムシは、出穂直後の加害により不稔籾を発生させ、直接的な減収被害を引き起こします。また、他の斑点米カメムシ類と同様に乳熟期の加害により、斑点米による品質低下も引き起こします。

本種は防除要否の判断が難しい害虫であるので、前年の発生数や不稔被害の発生程度を参考に、個々のほ場ごとに防除の要否を検討しましょう。薬剤防除を実施する場合は、各ほ場における出穂期が防除適期となるため、「でるた」による出穂期予測を参考に、防除時期を決めましょう。（右QRコード参照）

イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類は畦畔のイネ科雑草に生息していますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります（出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込むため控えましょう）。



写真1 イネカメムシ



水稻生育予測システム
「でるた」HP

○イネばか苗病の抜き取りの再度のお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するなど、対応についてご協力をお願いします。



写真2 イネばか苗病

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月26日に発行予定です。

《はじめに》

水稲の安定生産に向けては、その年の気象条件に合わせた栽培管理(基本技術の励行)が重要です。

ただ近年、水稲の出穂期後の高温により、白未熟粒などの高温登熟障害が発生しています。

白未熟粒は発生要因ごとに対策が異なるため、お手元に昨年産の米が残っていたら、白濁部位を確認し、発生要因に応じた高温対策に取り組みましょう。

また、県内全域で問題となっているイネカメムシ被害の対策も行い、収量・品質向上に取り組みましょう。

《白未熟粒の種類による発生要因と対策》

	基白粒	背白粒	乳白粒																				
白色不透明部の位置 (写真の上段は外観、下段は断面の様子)																							
主な発生要因	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期後20日間の高温(日平均気温が26℃以上) 出穂期の葉色の低下 		<ul style="list-style-type: none"> 日照不足、出穂期後の高温やフェーン現象等の乾燥風による稲体水分の低下 籾数過剰や倒伏 (籾数当たりのデンプンの転流・蓄積不足) 																				
対策	<p>○出穂期前7~5日(穂ばらみ期)に、葉色が目標値に達していない場合は、速効性肥料で追肥を施用(窒素量で1kg/10aを上限)しましょう。</p> <p>出穂期の葉色目標値と、軽減対策の時期及び窒素成分量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>葉色値(SPAD値)</th> <th>施用時期</th> <th>窒素成分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふさこがね</td> <td>36.5</td> <td rowspan="3">出穂期前7~5日前</td> <td rowspan="3">1kg/10a以内</td> </tr> <tr> <td>コシヒカリ</td> <td>34.4</td> </tr> <tr> <td>粒すけ</td> <td>34.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注)「コシヒカリ」のSPAD値34.4は、カラースケールによる群落葉色値で概ね4.0に相当します。</p> <p>○ドローンで追肥する場合は、ドローン専用肥料をお使い下さい。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>例 空散追肥306</td> <td>3.3 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>Jコート Quick</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>セントラル尿素 44.5</td> <td>2.5 kg/10a</td> </tr> <tr> <td>CORON(液肥)</td> <td>希釈倍率 2-5 倍</td> </tr> </tbody> </table>		品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量	ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内	コシヒカリ	34.4	粒すけ	34.0	例 空散追肥306	3.3 kg/10a	Jコート Quick	2.5 kg/10a	セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a	CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍	<p>○幼穂形成期の目標茎数の8割(「コシヒカリ」は目標穂数の8割)に達したら、速やかに中干しを行い、過繁茂防止と根張の促進を行いましょう。</p>  <p>中干しによる「コシヒカリ」倒伏軽減の効果(写真左:中干し無し、右:中干し実施のほ場)</p>
品種	葉色値(SPAD値)	施用時期	窒素成分量																				
ふさこがね	36.5	出穂期前7~5日前	1kg/10a以内																				
コシヒカリ	34.4																						
粒すけ	34.0																						
例 空散追肥306	3.3 kg/10a																						
Jコート Quick	2.5 kg/10a																						
セントラル尿素 44.5	2.5 kg/10a																						
CORON(液肥)	希釈倍率 2-5 倍																						

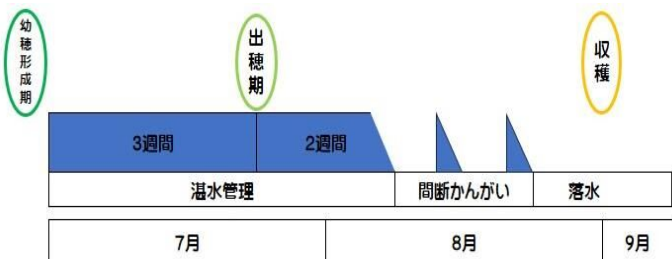
共通の対策

《対策1》根の活力を維持する水管理

出穂期の3週間前から2週間後までの期間は、湛水状態を保ち、その後は、登熟期間後半の根の活力を維持するため、間断かんがいとします。

収穫前の落水時期が早いと、白未熟粒が増加しますので、落水は出穂期後25日以降とします。

田面に大きな亀裂が入ると根が断絶され、登熟に必要な水分が不足しますので注意しましょう。



幼穂形成期以降の水管理の目安(「コシヒカリ」の場合)

《対策2》イネカメムシによる不稔、斑点米対策

近年、イネカメムシが多発生し、出穂時に加害されると不稔粒による減収や、乳熟期に加害されると斑点米(基部斑点米)による品質低下が発生するなどの問題が発生しています。

イネカメムシは、出穂直後の稲に成虫が飛来し、加害・産卵し、ふ化した幼虫も加害します。

イネカメムシ対策には、早めの防除が必要で、出穂期前の粒剤散布又は出穂期のフロアブル剤散布が効果的です。さらに、他の斑点米カメムシ対策としては穂揃期から乳熟期の追加防除も必要です。



出穂直後に加害
(稲穂に止まる成虫)



イネカメムシの吸汁
による不稔(立ち穂)



乳熟期に加害されると基部(胚芽とその周辺)斑点米になる

《お役立ち情報》



出穂期は、水稻生育予測システム「でるた」で予測結果を参考に、ほ場での生育状況も確認しましょう。



水稻の高温対策に関する研究成果は、第63回試験研究成果発表会_作物(水稻・高温対策)のYouTube動画をご覧下さい。



イネカメムシと、その他の斑点米カメムシの生態の違いは、こちらのYouTube動画を参考にして下さい。

千葉県施肥設計 支援アプリ

「せぴあ」



利用はこちら
(規約を御確認ください)



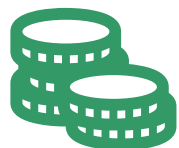
千葉県の施肥基準と肥料・堆肥データを基に
スマホで簡単に施肥設計ができるWebアプリ



スマホで簡単操作！
現場でもすぐに施肥設計が可能



肥効率を考慮した設計！
堆肥を含む有機質資材に対応



施肥コストを見える化！
施肥設計でコストを同時に計算



パターンで比較が可能！
複数の施肥設計を比較可能



千葉県の
施肥基準に対応
品目に応じた適正な
施肥設計をサポート



肥料データ
を掲載
主要な肥料情報を
反映した設計が可能



堆肥データ
も自動反映
堆肥の成分値を計算し
有効活用を支援



こんな場面で役立ちます！

- ✓ 施肥設計の見直しに
- ✓ 肥料高騰への対応に
- ✓ 減化学肥料の推進に



[連絡先] (TEL: 043-291-9992) 詳しい説明はこちら▶

千葉県農林総合研究センター最重点プロジェクト研究室

<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/system/sepia.html>

